

茨城映画センター特別企画上映会

日本アカデミー賞最優秀作品賞「侍タイムスリッパー」の安田淳一監督作品

営々と受け継がれてきた日本の米作りの今を描く!!

米作りエンタテインメントムービー

ごはん

稲穂の草原を渡る風が
彼女の髪を撫でる時、
美しい「奇跡」が起こる。



監督/脚本/撮影/照明/編集/安田淳一 出演/沙倉ゆうの 源 八 井上 肇 福本清三 紅 杏子 多賀勝一 福田善晴 戸田都康 浅野博之 鈴木ただし 小野孝弘
森田亜紀 藤 美佳 高寺裕司 徳竹末夏 石垣のぼる 宮田康平 上西雄大 前田也須子 井堀泰介 親皇嘉次 南野秀嗣 夜明 新 香山栄志 古野本二葉 川口 典 大川由香 小村友南 夏 愛梨 嵐 千尋 伊月望美 庄司 健 福士唯斗 福士彩斗 廣瀬翔也 中川星七 ポプ・マーサム 安田 豊
音声収録/板井健一 岩見一樹 佐藤龍二 雨野芳嗣 石岡良教 税法リリーチ/赤野真依子 鈴木やちよ 小瀬真/白木瑛也 ロウハン/藤岡真史 撮影アシスタント/今井伊織 前田智広 飯田博士 中谷島代 伊藤智晴 岩見一樹 戸田有三 鈴木ただし 藤本当久 安田一生 山本沙央梨
赤野真依子 大和真弓 藤岡高史 白木瑛也 沖 夏菜 市川祥次 大和聖史 青山理沙子 佐々木優 田中那苗 土路生美 後藤達哉 中島 輝 世良真子 橋上尚子 木下実沙都 中促愛美 今井 敦 坂本みゆき 協力/二木俊彦 内田 悠 岩見雄二 安田 豊 大学コンソーシアム京都 東映京都撮影所

ストーリー

東京でOLとして働くヒカリに父が急逝したとの知らせがはいります。

彼女の父は京都で米作り農業を営んでいました。

幼い頃に母を亡くしたヒカリは仕事に明け暮れた父とはぎこちない間柄でした。

葬儀のために京都の戻ったヒカリ。

年老いた農家の人々に頼られ生前に父が引き受けていた田んぼが15000坪にものぼることを知り愕然とします。

田植えが済んで一カ月がすぎ、稲はどんどん成長しています。

「誰かが田んぼを見なければいけません」足を怪我して入院中の青年源八の頼みと田を預かっている西山老人の「お父さんがなんであんなに頑張ってたか知りとうはないか？」との問いに、ヒカリは父の残した田んぼを引き継ごうと決意するのです。米作りの経験も知識もない彼女でしたが、さまざまな人に助けられ、昔から伝わる先人の知恵を借りて奮闘します。

決して牧歌的ではない現代の米作り。

それは広大な田んぼと、一人の女性との命がけの戦いでした。

そんな中、仕事一筋に生きた不器用な父の思いをヒカリは少しずつ理解し始めます。

やがて秋の風が稲穂の草原を渡る頃、想像もしなかった美しい奇跡が起こるのでした。

優れたフィクションだけが持つ魔法の瞬間

農家の長男であり、映画にも携わっている身で書かせてもらおうと米づくりは映画に似ている。

とにかく手間も金もかかるし、予想もしないトラブルばかり起こる。積み重ねた努力は台風一つで水の泡になる。そして、何よりも報われることがほとんどない。

しかし、『ごはん』が描き出すのは、そんな損得勘定から外れた人間の営みの美しさだ。

沙倉ゆうの演じるヒロインは、若くして米づくり農家の仕事を引き継ぐことになる。

彼女は夏の厳しい日差しの中でも田んぼに水を引いて回り、

収穫の秋には稲刈りに精を出す。そこに見返りはない。しかし、その純真が周囲の人々を巻き込んでいく。

黄金色の稲穂の海で動き続ける彼女のシルエットは、まるで王蟲の群れを渡る王女のような。

そう、沙倉ゆうのは農業地帯に舞い降りた、ゴム長靴姿のナウシカなのである。

そして、ヒロインは農業、いや全てのものづくりに携わる人間のプライドを代弁している。

現代人が気にも留めていない風景にこそドラマがあるのだと『ごはん』は訴えかけてくる。

なんの変哲もないことは、なんの価値もないことと同義ではない。

本作のもう一人の主演は他ならぬ田んぼそのものである。

苗から稲穂への成長はもちろん、雑草や小さな虫にいたるまで慈しみに満ちた視点が映像に宿っている。

それらが画面に映し出されるたび、誰の目にも映らなかった全ての精霊たちに名前が与えられるような崇高さが胸に迫ってくる。

優れたフィクションだけが持つ魔法の瞬間がきっとあなたを待つだろう。

そして思い出す。我々はその名前を知っていたはずだ、と。

『ごはん』はあなたの日常を一変させる作品である。

本作を見終わった後、あなたが家で口にする米粒の一つ一つはどんな味がするだろうか。

魔法の余韻はあなたの食卓にまでつながっていく。

文＝石塚就一（映画ライター・京都在住）



●井上 肇

「関が原」「三度目の殺人」などドラマ、映画で幅広く活躍。生粋の江戸っ子。面倒見が良く人懐っこい好人物。仕事で京都に来ると「ごはん食べに行こう」と監督に電話せずにはいられない寂しがり屋な一面も(笑)



●源八

2.3日で終わるから」と呼ばれて気軽に引き受けるが構想が膨らみ長編となる過程で4年の撮影に巻き込まれる。福岡出身なのに熊本出身と監督に勘違いされ「なぜ熊本弁がヘタなんだ」と怒れた。



●沙倉ゆうの

幼な顔に愛らしい笑顔。古風な佇まいは昭和の女優のよう。撮影期間中に演技もさることながらコンパイン・田植え機など大型農機の操縦技術が著しく向上。「日本一コンパインの似合う女優」と呼ばれるに至る。



●福本清三

言わずと知れた「日本一の斬られ役」。トム・クルーズ主演の「ラストサムライ」で脚光を浴びる。「太陽ライムライト」では主役に抜擢された数々の受賞に輝いた。謙虚で誠実な人柄で現場スタッフを魅了。



●紅 杏子

関西を代表する女優のひとり。リズミカルなセリフまわし、意表をつくアドリブ、関西のおばはんを演じさせれば庄子のリアリティ。損得抜きで作品にのめり込む芝居馬鹿。浪花人情紙風船団を率いる精力的活動。

8月28日(木) ひたちなか市文化会館小ホール

①10:30~12:30
②14:00~16:00

前売券 1,200円 (当日券/一般1,500円、しょうがい者1,000円、高校生以下800円)

【プレイガイド】ひたちなか市文化会館、ザ・ヒロサワ・シティ・会館、茨城映画センター

【主催・チケット予約受付】茨城映画センター/tel029-226-3156、eiga-c@ibaraki-eiga.co.jp

※悠悠映画塾会員は「受講証カード」の提示で当日料金1,100円に優待。会館駐車場は無料。



デジタルチケットは
上記QRから購入可